

平成23年度 第3回総合計画審議会(6/30) 第2章関連意見一覧

項		意見	対応
	全体	先程も指摘したが、やはり施策の方向に対しての指標がはっきりしていない。例えば、情報公開の推進の中でも情報公開を適正に進めますとしているが、現在情報公開資料数が何点あってそのうち非公開が何点あるものを検討し、非公開をこれだけ減らすなどを指標化の方が事業としており明確になるので、その様な視点で指標化に努めていただきたい。	基本計画として施策の方向があるにもかかわらず、指標がないなど、再度検討し、計画書としての精度を高めていきたい。
		同様の意見となるが、やはり目標指標については、施策の方向と一致していないとなかなか理解できない。指標の設定について再考していただきたい。	時間的制約はありますが、内部で検討を行います。
第1項	町民との協働によるまちづくりの推進	対話集会（機会）の回数など、場当たりのやるものではなく、ある程度の想定があると思う。予算決算で1回、道路整備計画で1回など、何をやるのか想定できればいくらかでも増加することができる。その辺を内部的に決めておけば指標としてはクリアできるのではないか。	対話集会の設定調書にも記載があるが、各小学校区及び全体で開催することを目指しており、担当課との調整では「まちづくり対話集会」などオールラウンドで想定していますが、例えば教育などテーマを絞ってやれば、そのテーマごとに回数は調整できることから、想定するテーマについて、再度担当課と調整させていただきたい。
		開かれた町民参加型の町政運営を図るため、具体的な町民活動を支援する仕組みの構築が求められていますと記述があるが、仕組みの構築とは何か。	対話の機会の充実の中に相対的に記載しているが、もう少し具体的に記載できるか検討したい。
第3項	効率的な行財政運営の推進	目標指標の中で、町税の収納率があるが、やはり指標の設定方法に疑問がある。なぜ平成29年と平成32年が同率となるのか。例えば29年では95.5%で平成32年が96.0%で確実に5%づつ徴収率を上げていくならわかるが、同率では理解に苦しむ。指標の置き方がやはりおかしいのではないか。	確かに先程の自然環境保全地域などの指標と同様に横ずれしている指標など、どの段階で出せるかわからないが、お時間をいただき再度検討をしたい。
		6ページの地方分権の推進の中で、「個性を生かした地域づくり」とあるが、例えば倉見地域のまちづくりということではなく、地方分権から考えると町域全体を指していると思うがいかか。	ご指摘の通りで、地方分権といった視点から見ると「地域」は町域全体であり、「地域づくり」というと、ある特定の地域のまちづくりと誤解を生む可能性があることから、「個性を生かしたまちづくり」と変更いただきたい。